

想像を超えてきた『ごちゃまぜ』の可能性

～日常の変化・地域の理解・数字で見るデイサービスの進化～

社会福祉法人瓔珞会
デイサービスセンターばんなぐろ
片山　大地／大石橋　光



石狩市のご紹介

札幌市の北に位置する石狩市は、都市の利便性と豊かな自然が調和する魅力的なまちです。

日本海に面し、石狩川が流れるこの地域は、季節ごとの美しい景観と、農業や漁業も盛んな恵まれた環境が特徴です。

現在の人口は約57,000人、そのうち65歳以上の高齢者人口は約19,500人となっており、高齢化率は約34%です。

実践の舞台
【デイサービスセンター ばんなぐろ】



施設概要

所在地	石狩市
施設種別	地域密着型通所介護
利用定員	18人
利用者平均年齢	85.6歳
職員数	15人（高齢者デイ、児童デイ合わせて）
設備	機械浴・送迎
利用対象	事業対象者～要介護5

- 児童デイを同フロアに併設
- 日々ともに過ごす環境

併設・関連事業：軽費老人ホーム、特別養護老人ホーム、老人短期入所、障害児通所支援

> この環境が、”高齢者と子どもが自然に関わる日常”の土台になっている。

「ごちゃまぜ」とは何か

「高齢者と子どもが日常的に関わることができたらいいな」という純粋な想いから始まった空間づくりです。



取り組んだ課題

サービスの課題

・現場が感じるマンネリ化

日々の活動が固定化し、「今日も同じ一日だった」と職員自身が感じていた

・利用者様の「役割の喪失感」

施設内でご自身の役割を見出せてないのではないか、という職員の葛藤

経営課題

稼働率の低迷・新規利用者の獲得難・職員の人手不足という三重の壁に直面



具体的な取り組み①
【デイサービスの環境改善と仕掛けづくり】

「やってあげたい」気持ちを尊重

高齢者が子どもに関わる
主体的な動機を大切にした
環境設計

卓球台の設置

他事業所に眠っていた
卓球台を導入

持ち込みルールの見直し

トラブル回避のため禁止していた物のやり取りを解禁。
おもちゃ・漫画などを自宅から持参可能に







利用者のQOL向上
自然な関わりが生んだ変化

本気の卓球

子どもと本気で卓球に取り組む高齢者が出現
—競い合う喜びが活力を生む

自発的な持参

コレクション好きな利用者が自発的におもちゃを持参し、子どもたちと分かち合うように

贈る喜び

自ら採った果物や山菜を子どもたちに渡す場面が生まれ、「与える存在」としての誇りが芽生える

役割を持つ存在へ

「支援される側」から「役割を持つ存在」へ
—利用者の**自己肯定感が向上**

具体的な取り組み②
【地域・ケアマネへの発信】

→ ばんなぐろ通信

月1回、楽しそうな日常を継続的に持参・FAXで発信。顔の見える情報提供

→ 地域への直接発信

地域の人が集まる場所へ出向き「ごちゃまぜ」の実践を直接伝える

→ SNS活用

令和7年10月よりInstagram本格始動、ホームページリニューアル・ブログ更新で発信力強化




デイサービスセンター ばんなぐろ
児童発達支援・放課後等デイサービス ばんなぐろ

ばんなぐろ通信

2026年4月 第153号

3月行事『お菓子レク　卒園・卒業お祝い会』

４月を迎え、日増しに暖かくなってまいりました。心弾む春の陽気に、皆様の表情も自然とほころんでいるようです。

さて、デイサービスでは先月、スイーツレクでの「桜餅作り」と、卒園・卒業のお祝い会を開催いたしました。桜餅作りでは、生地を焼いてあんこを丁寧に丸め、本格的な道明寺風の桜餅が完成！皆様の美味しそうな笑顔をたくさん見ることができました。

お祝い会では、職員の演奏に合わせて「贈る言葉」を合唱し、子どもたちは「虹」を歌ってくれました。一生懸命に手話をしながら歌う姿には、会場全体が感動に包まれました。卒園・卒業を迎えられた皆様、本当におめでとうございます。そして、ご入学おめでとうございます！今しかないこの瞬間を、全力で楽しんでくださいね。(記：大石橋光)

3月の児童デイサービス

３月は春休みもあり、行事盛りだくさんの１ヶ月でした。卒園・卒業お祝い会は、４月以降も利用を続ける子ばかりだったため、涙はありつつも笑顔あふれる賑やかな会となりました！（詳細は上記参照☆）

消防訓練では「周囲に大人がいない」状況を想定。消火器の使い方を学ぶ子どもたちの表情は真剣そのものでした。また、クッキングではゆで卵の殻剥きに苦戦しながらも、皆で協力して美味しい一品を完成させました。

地域への浸透：ケアマネージャーの変化

児童との関わりを目的とした紹介

R7年4月～R8年3月

3割

ケアプランに「ごちゃまぜ」環境が明記された人数

R8年3月末時点、登録者49名中

7名

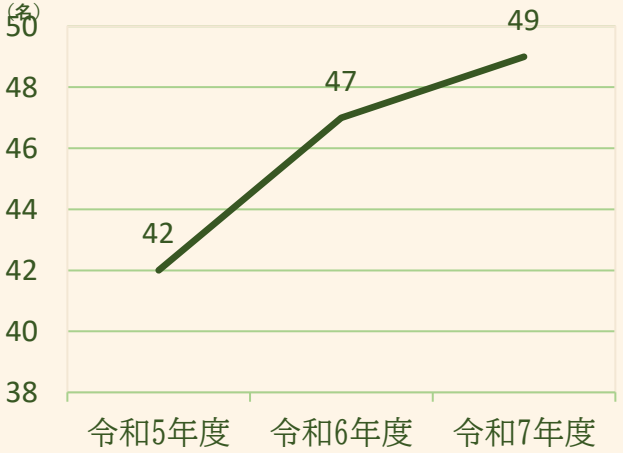
ケアマネジャーが「ごちゃまぜ環境」を積極的にケアプランに位置づけたり、児童との交流を目的とした紹介がある

地域の価値観が変わった証拠

数字で見るデイサービス①

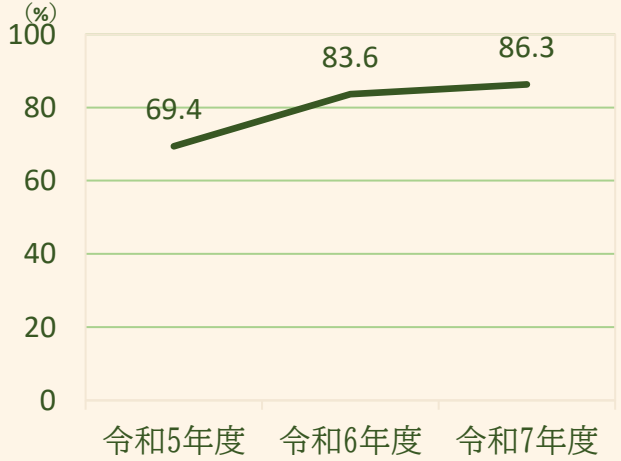
稼働率・登録者数の推移（R5～R7）

登録者数



※令和５年度児童発達支援・放課後等デイサービス開設

稼働率



※令和５年度児童発達支援・放課後等デイサービス開設

- **登録者数**：42名 → 47名 → **49名**
- **稼働率**：**86.3%**（全国平均を上回る水準）

数字で見るデイサービス②

「ごちゃまぜ」始める前（令和４年度実績）と「ごちゃまぜ」を始めた後（令和５～７年度の平均値）

ケアマネジャーからの
紹介件数

46%増

新規利用者数

126%増

「ごちゃまぜ」実践が地域に浸透するにつれ
紹介件数・新規利用者数ともに大幅に増加。

「ごちゃまぜ」が解決した人員不足①

児童職員・子ども達がキーマンに

児童発達支援・放課後等デイサービスの保育士や児童指導員が、高齢者の余暇活動・関わり手として自然に機能。

子どもたちも同様に、おじいちゃん・おばあちゃんの良き話し相手になっている







「ごちゃまぜ」が解決した人員不足②

多様な人材が集結

「ごちゃまぜ」の取り組みに興味を持ち、
介護や福祉を専攻していない方が入職
（高校生・美術専攻の大学生など）

介護をしながら、得意なことを活かす。

職員も「ごちゃまぜ」になり
人員不足を自然に解決した



成果のまとめ

「ごちゃまぜ」は課題の解決策として始めたわけではない。
「高齢者と子どもが日常的に関われたら」という想いが出発点だった。

利用者の主体性
QOL向上

稼働率の向上
新規利用者の増加

想像を超えた効果

人員不足の解消



私たちが目指す地域の未来

分けない社会へ

高齢者・障がい者・児童が「分けられる」のではなく、日常の中で**自然に関わり合う社会**へ

ごちゃまぜは地域のあり方

「ごちゃまぜ」は福祉の手法ではなく、**地域のあり方そのもの**

今後の課題：全道・全国の仲間とつながる



【課題】

誰もが役割と居場所を
持てる地域社会を大切にする
仲間とつながる

【展望】

石狩市の20年後・30年後の
未来に向けた「ごちゃまぜ」の
社会づくり



ご清聴ありがとうございました。



Home page

Instagram

YOURAKUKAI.GOCHAMAZE

社会福祉法人　瓔珞会　デイサービスセンターばんなぐろ